

NIHU 現代中国地域研究
拠点連携プログラム
第5回国際シンポジウム

NIHU 当代中国地区研究基地联合项目第五届国际学术会议
NIHU Network of Contemporary Chinese Studies 5th Symposium

2012年1月21日(土)
早稲田大学大隈小講堂

早稲田大学大隈小讲堂
Okuma small lecture hall, Waseda University

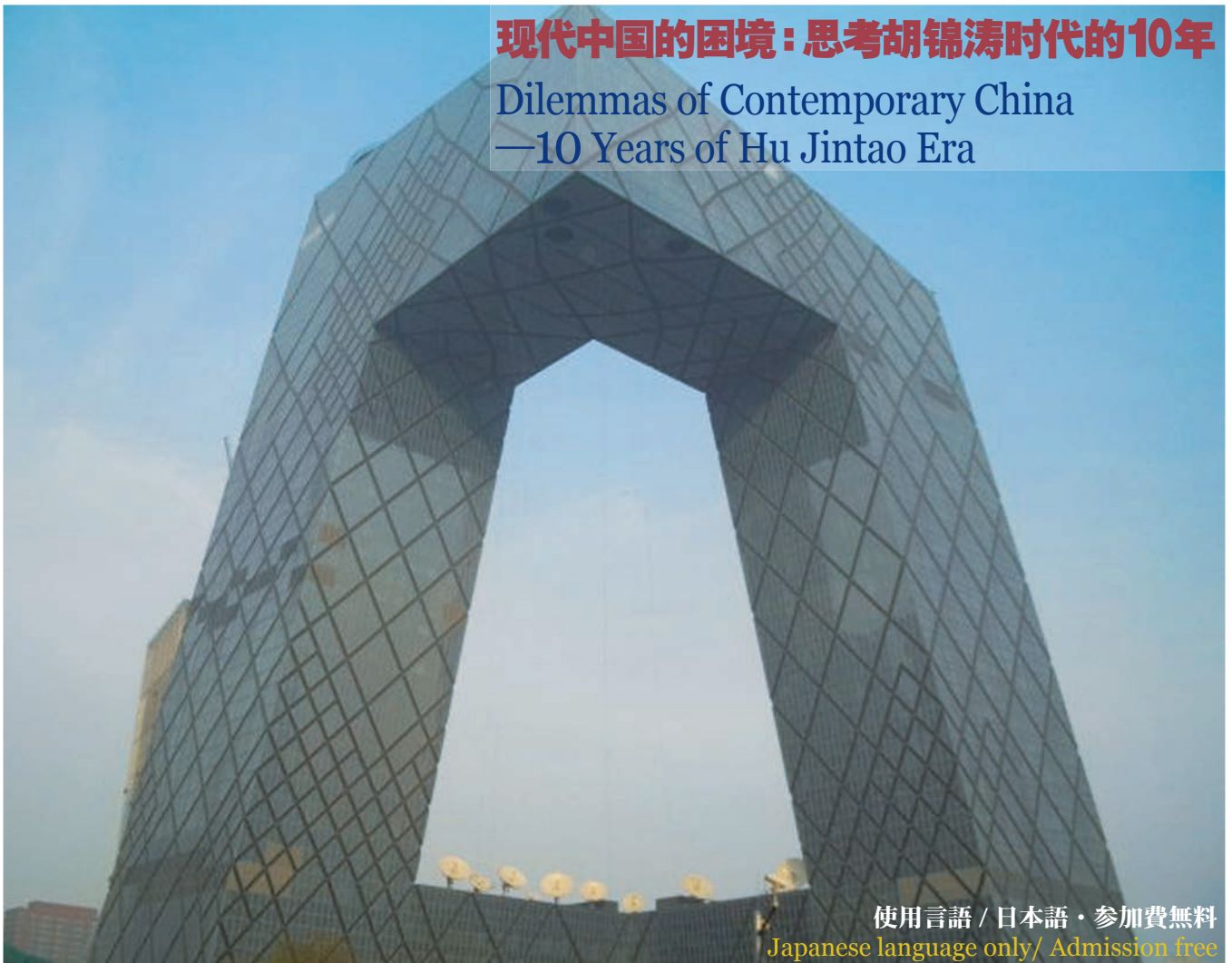
NIHU プログラム総括シンポジウム

現代中国のジレンマ

胡錦濤時代の10年を考える

現代中国的困境：思考胡锦涛时代的10年

Dilemmas of Contemporary China
—10 Years of Hu Jintao Era



使用言語 / 日本語・参加費無料
Japanese language only / Admission free

主催 / Host 人間文化研究機構 (NIHU) 現代中国地域研究拠点連携プログラム
NIHU Network of Contemporary Chinese Studies

共催 / Co-Host 早稲田大学アジア研究機構
Organization for Asian Studies, Waseda University

申込先 / Access 早稲田大学現代中国研究所 E-mail : nihuchina5@gmail.com

趣 旨

「躍進する中国はどこへ行く」、世界でもっとも関心を呼ぶ問いである。21世紀世界という「舞台」の主演に中国が躍り出たことを否定する者はいない。GDPで「世界第2位」となり、軍事力の増強にもいとまがない。国連、APECなど既存の国際機関ではもとより、G20、COPなど新たな国際会議でもその存在力を増している。2011年1月の『瞭望』誌で胡鞍綱は「2020年に米国を追い越す」という意欲と見通しを示した。しかし、急成長する中国の「これから」に立ちはだかるものは幾つかの「ジレンマ」である。

第1に経済成長路線とそれが生み出した「社会的負」のジレンマである。第2は大国化と国際協調のジレンマである。「大国」意識が生み出す強い民族主義、米国への挑戦といった強国論と「責任ある大国」「平和的台頭」との距離を感じさせる。さらに第3に中国特異論と普遍主義のジレンマである。世界のリーダーには世界が共有する価値や公共財への積極的な関わりが求められる。しかし、「中国的特色」「中国モデル」などは伝統的文化や歴史へのこだわりが色濃い。第4に開放社会と一党体制のジレンマである。これらのジレンマに、中国はどう立ち向かうのか。胡錦濤時代はまさに躍進に伴うジレンマを醸成した10年であった。第1期現代中国地域研究拠点事業を総括する意味からも、各拠点の成果を踏まえつつこのジレンマの意味を問い、解析を行う。

言語：日本語のみ

9:45

開会の挨拶

プログラム説明 中尾正義（NIHU 地域研究推進センター長）

主 旨 説 明 天兒 慧（NIHU 現代中国地域研究拠点連携プログラム幹事長）

総 合 司 会 弓野正宏（早稲田大学）

パネル展示—中国研究資料電子図書館〔東洋文庫〕

10:00–11:30

セッション 1・政治と外交「権力移行と国家ビジョン」

司会者：高橋祐三（東海大学）

報告者：1・唐 亮（早稲田大学）「中国の台頭と東アジア国際秩序の再編」

2・安田淳（慶應義塾大学）「権力移行と軍の近代化」

討論者：青山瑠妙（早稲田大学）

10年に及ぶ胡錦濤政権のもとで、中国は高度経済成長を持続しつつ、大きな社会的変化を遂げた。貧富の格差や腐敗をめぐる問題は、政治構造にも起因するとの議論が高まり、政治改革の必要性が叫ばれている。折しも、来年は習近平体制の発足が見込まれており、「第五世代」へと権力が移行しようとしている。この権力移行の過程で、指導者の認識とビジョン、政策、および政治体制にいかなる変化が生じる可能性があるだろうか。本セッションにおいては、権力移行に伴い生じつつある、そして生じうる政治的諸変化とその意義について検討する。

11:30–12:30

昼食

12:30-14:00

セッション 2・歴史と伝統「漢字文化の今」

司会者：石川禎浩（京都大学）

報告者：1・安岡孝一（京都大学）「漢代から現代に至る拓本文字データベース」

2・大澤 肇（東洋文庫）「電子図書館構築から見えてきたもの―胡錦濤時代におけるデジタル技術と中国社会」

討論者：佐藤仁史（一橋大学）

近年、中国における研究資源・資料のデジタル化、オンライン化(電子図書、電子図書館)が急激な拡大を見せている。歴史中国を扱うにせよ、現代中国を扱うにせよ、今や中国産のデジタル資料・オンライン資料を抜きにしては、研究自体が立ちゆかない時代になりつつある。中国の様々な領域で進んでいる漢字文化のデジタル化は、如何なる国家戦略のもとで展開されているのか、それは私たち現代中国に向き合う者に何をもたらすのか、そして長期にわたって膨大な漢字文化(研究資源)を蓄積してきた日本の果たすべき役割は何か。本セッションでは、資料のデジタル化の現場に身を置く研究者の体験・提言をもとに、「漢字文化の今」の姿を見つめる。

14:00-14:20

休憩

14:20-15:50

セッション 3・経済と環境「持続的発展の可能性」

司会者：松永光平（総合地球環境学研究所）

報告者：1・門 闕（中山大學）「中国小型水力発電の開発と農村部電力事業」

2・大西暁生（富山県立大学）「中国の社会経済成長と水需給ギャップの展望」

討論者：小島麗逸（大東文化大学名誉教授）

胡錦濤政権時代の10年は、江沢民政権時の高度成長期につづく調整期であったと言えよう。西部大開発プロジェクトに代表されるような内陸部と沿岸地域の格差解消への試みはうまくいっているのだろうか。本セッションでは、水資源の賦存と利用、および電源開発という発展に欠かせないインフラ整備の問題を通して、経済と環境とのバランスが求められる、持続可能な発展の可能性について考えてみたい。

16:00-17:30

総括セッション

司会者：毛里和子（早稲田大学名誉教授）

パネリスト：天児 慧（早稲田大学）、森 時彦（京都大学）、国分良成（慶應義塾大学）

田島俊雄（東京大学）、窪田順平（総合地球環境学研究所）、高田幸男（東洋文庫）

17:30-17:45

閉会の挨拶

山田辰雄 (慶應義塾大学名誉教授)

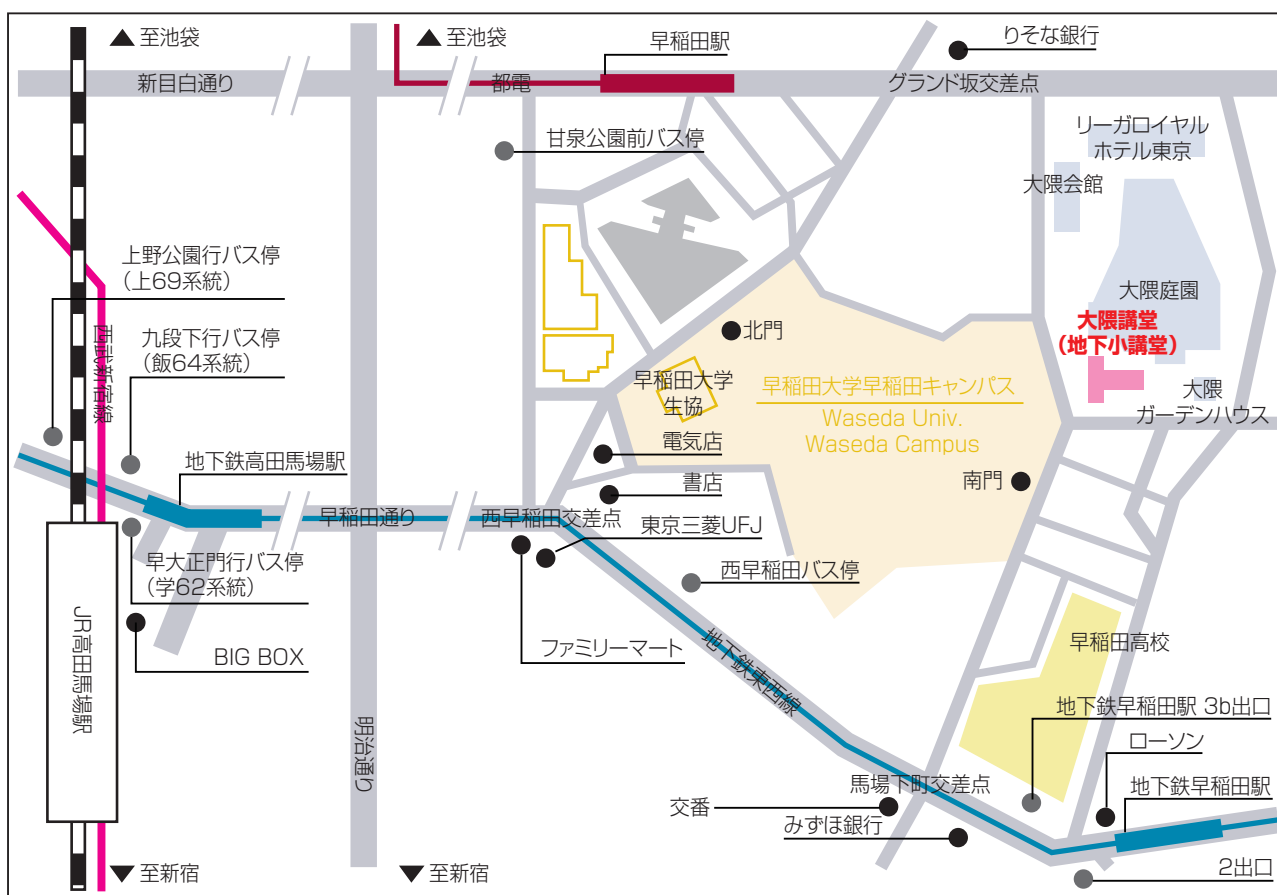
18:00 ~

交流会 (cafe125)

申込先

参加申込み制(無料) : nihuchina5@gmail.com

問い合わせ先 : NIHU 現代中国地域研究早稲田大学拠点・早稲田大学現代中国研究所事務局
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学早稲田キャンパス9号館9階914号室
電話 : 03-5287-5091/Fax: 03-5287-5092



交通機関

【バスをご利用の場合】

・JR 山手線 / 西武新宿線高田馬場駅より早大正門行(学02系統)バス 15分

【地下鉄をご利用の場合】

・東京メトロ東西線早稲田駅 3b 番出口 / 2 番出口より徒歩 10分

Traffic Information:

【By Bus】

・Bound for Sodai-Seimon:
15 min. from Takadanobaba St.(JR Yamanote Line or Seibu Shinjuku Line)

【By Subway】

・10 min. walk from Exit 3b or 2 of Waseda St.
(Tokyo Metro Tozai Line)